

主任コラム10月号

主任 澤井 良子



9月は、年長さんにとって一大イベントの『お泊り保育』がありました。お泊り保育を迎えるにあたって、子ども達と保育士でいろいろと話し合い取り組んできました。

その一つとして、鈴鹿亀山消費生活センターの方に来て頂き、買い物先でのルールをお話してもらってからおもちゃのドーナツと100円玉で「お買い物ごっこ」をしました。お店のように並べられたドーナツの中から100円で買えるようにしなくてはなりません、中には150円のもの混ざっています。会計に行くまでは、大人は声を掛けず子どもの姿を見守ります。店員さん役の方からの勧誘の言葉もたくさんありましたが、「100円しかないから1つだけ!」という子や、「これも欲しい!」とたくさんトレーに載せてしまう子、会計で「1100円です」と言われてびっくりした表情を浮かべる子と様々でした。そしてこの体験を活かし、年長さんが3つのグループに分かれてC-BUSに乗りお泊り保育に必要な「おやつ」「ジュース」「紙コップ・クッキングシート」をココカラファインまで買いに行くことにしました。



お店に着いてからは、リーダー、カゴを持つ人、品物を取る人、お家計をする人と役割を決めました。自分達でどこの売り場に欲しい品物があるのかを探したり、品物の値段の見方を引率した職員が聞き、計算機で合計を計算します。園長先生からもらった1000円分の小銭のなかから『400円だから、100円4つやな。』と子ども同士で話したり、「6円はどうする?」と聞くと『5円と1円』と答えられる子もいてビックリしました。レジでお店の方とのやり取りも子ども達に任せました。

このような実体験から数の概念・お金の数え方を知ることや、文字などの興味関心も保育の中で繋げていきたいと思います。年長児さんの保護者の方からも、「お買い物喜んでいました」「貴重な体験をさせてもらった」などの感想を頂きありがとうございました。

おかいものしたよ



お泊り保育

9月15日・16日

お泊り保育では初めて四日市市少年自然の家に宿泊しました。子ども達は4つのグループに分かれて子ども会議をし、それぞれの係の役割を決めました。決め方も意見が分かれたり、誰か1人でも納得がいかなければ、どのようにしたらみんなの意見を合わせられるのかを時間を掛けて話し合っている子ども達を見ていた担任保育士から「子ども達の意見や心の動きをみていて色々な発見があった」と聞きました。自分の意見を言いつつも相手の思いに気づき意見を合わせたり、寄り添ったりすることは大事であり、人と考えが異なることは当たり前で、そこから自分の考えを伝えるにはどうしたらいいかという「参画」や「対話」と言うものを大切にしていきたいと私も感じました。

お泊り保育では、お家の方と離れて保育士とお友だちと過ごす中で、仲間と過ごす楽しさを感じるだけでなく担当した役割の責任を感じたりして、心も体も大きく成長したと思います。「参加する前は『不安』と言っていたけど、日に日に『お泊り保育が楽しみ!』というようになりました」と保護者の方から様子を教えて頂いたり、また沢山の感想も頂きありがとうございました。みんなで敷いたお布団でお友だちと寝た事、大きいお風呂で泳いだこと、夕飯を食べた事、夜の暗さを利用したお楽しみ会、朝の散歩。途中で帰る子もおらずお家の方と対面できたことは、子ども達も私達職員も達成感を感じることができ、良い思い出になりました。残り半年となりましたが、年長さんと共にたくさんの経験や思い出を作っていけたらと思います。

年長さんのしかったね
お泊り保育

